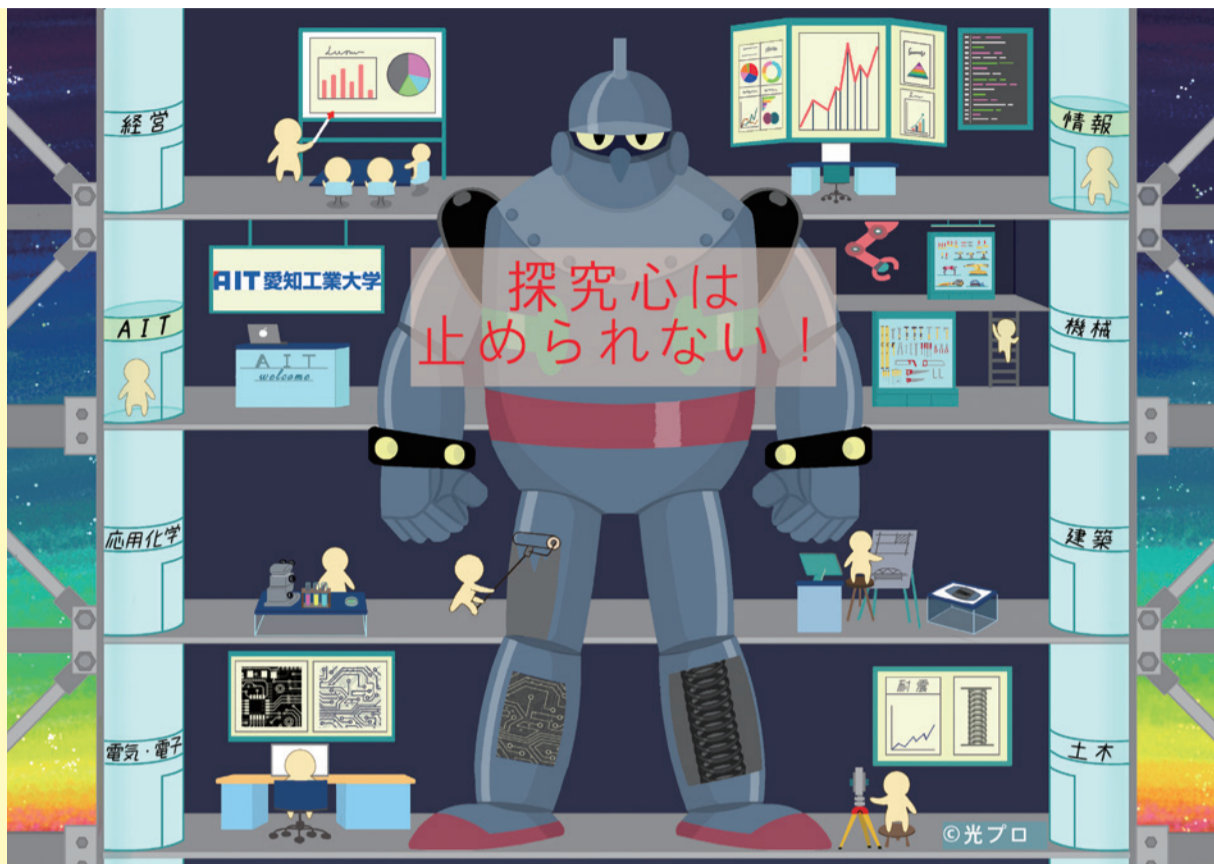


学生から募集した看板デザインが No.07に決定しました。

看板に採用されたNo.07は「リニモ八草駅構内」「愛知環状鉄道八草駅ホーム」に2023年4月1日から設置されます。
たくさんのご投票ありがとうございました。



看板採用

応募
No. 07

工学部 機械学科 機械創造工学専攻
山本 彩未さん

愛知工業大学の学生の「探究心は止められない」という姿を、鉄人28号を開発する様子を通して表現しました。各専攻によって得意な技術は様々で面白いものばかりですが、それを多くの人に伝えるのは難しいと思いました。そんな時、鉄人28号を開発するには各専攻の力を合わせるのがいいと気がついたので、愛工大生の総力を結集してそれを完成させるシーンをデザインに取り入れました!

特別賞

応募
No. 03

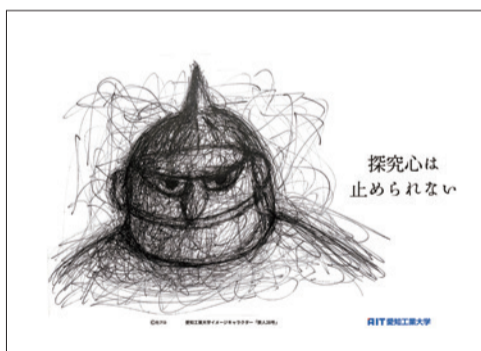
工学部 機械学科 機械工学専攻
辻 大輝さん

キャッチコピーである「探究心は止められない」を表現するために、ワクワク感や迫力のある構図を意識しました。鉄人28号が拳を突き出すポーズにすることで、強い意志を感じさせるイラストになったと思います。また、背景は色の三原色をモチーフにしています。「鉄人28号の手によって白紙の空間が彩られていく」様なイメージで描かせて頂きました。



応募
No. 01

「探究心は止められない」を、全面に押し出すように、出来るだけ大きくし、鉄人28号に対しての文字の前面部分、背面部分と分け、躍動感、立体感にこだわりました。コンセプトとして、上空高度10000ftを飛行している鉄人28号。愛知工業大学の無限の向上心を鉄人28号の体の傾き、学問の無限性を、広大な空に例えています。



応募
No. 02

何不自由のないこの豊かな現代において、ものづくりの「0から1」は計り知れなく難しいことです。そこで今、既に有るありきたりで便利なものを使うだけの消費者になるのか、それとも、数え切れないほどの失敗を繰り返し、自分の願望や理想を固く追いつく求め、夢を掴み取るか。その境界線は大学にあると考えます。探究心は誰にも止められない。だからこそ、この絵は自分のために描きました。



応募
No. 04

「探究心は止められない」のキャッチコピーから「止められない」という部分が強く伝わるよう掛け、鉄人28号と文字を表現しました。また表現する為、走っているような鉄人28号・スピード感のある文字で制作しました。看板の大きさを一杯使う事で八草駅に着いた人の目に嫌でも入るような、まず「見て貰うこと・知ってもらう事」を重点に置いてデザインをしました。



応募
No. 05

鉄人プロジェクトが行われているロボット研究ミュージアムを背景に、鉄人28号のフィギュアをカメラで撮影しました。文字のほかしを赤ではなくピンクにすることで、文字の主張を和らげ背景に合わせるようにしました。また、写真のコントラストと彩度を上げることで、写真を少しアニメっぽく仕上げました。



応募
No. 06

私は、鉄人のペーパーシアターを作り、写真を撮ってポスターを作成しました。また、写真を撮るときに光を当てることでより立体感を出しました。このポスターの森は、大学の近くにある海上の森をイメージしています。今回のキャッチコピーである「探究心は止められない」を表現するために、鉄人28号を一番手前に持ってくることで躍動感を出すことができました。



応募
No. 08

探究心の根本にある固い意志とバイタリティーがより力強く伝わるように、鮮やかな配色とダイナミックな構図を取り入れて制作しました。特にこだわって描き込んだのは目です。引き込まれるような目を目標として、瞳がより明るく輝いて見えるように色を選びました。また、手元にも少し工夫をしております。人物が正面を見ているだけの構図はどうしてもつべりしてしまうので、手前に出てきている手とペンは軽くぼかしを入れ、より立体的な絵になるようにしました。



応募
No. 09

今回のテーマは「探究心は止められない」ということで、これからの将来を担う若者をイメージした青い空をメインにしてポスターを作りました。このポスターのイメージは、大空のもとで奮闘する人たちが鉄人28号に見立て、夢や目標に向かって戦う姿を描きました。また、全体的に青を基調とすることで、フレッシュさとさわやかさ・明るさを表現しました。このポスターを見た人に少しでも励みになってほしいと思っています。



応募
No. 10

「探究心は止められない」というキャッチコピーを鉄人が豪快に飛び、突き進む描写で表現しました。背景は「ワクワクして想像してる時」の世界感をサイバーパンク風に表現してみました。上記の二つの要素を合わせることで、探究心というものがしっかり表現できたのではないかと思います。ふと見ただけで目に留まるような迫力を目指し、制作しました。制作している中で「どういう構図が迫力があるのだろうか、もっと速度感を出せないか、目をもっとかっこよく光らせたい。」などと、気が付いたら自分も探究心に駆られていました(笑)見ていただいた方々に少しでも良いと、感じていただけたら何よりです。